

事項	カーネーション茎腐病菌の数種花きに対する病原性		
ねらい	カーネーション茎腐病菌の特に花き類に対する病原菌を明らかにし、耕種的防除対策の参考とする。		
指導内容	<p>1 カーネーション茎腐病の病原菌 Rhizoctonia solani (菌糸融合群第2群第2型、ⅢB型) 30℃付近に生育適温を持つ高温性の菌群で、イネ、畑作物、野菜を含む多くの植物に寄生することが知られている。</p> <p>2 数種花き類に対する病原性 カーネーション茎腐病菌を数種花き類に接種した結果、トルコギキョウ、ストック及びシュッコンカスミソウに対して強い病原性を示した。 トルコギキョウでは、地際茎及び下位葉の腐敗を生じ、著しいものは枯死する。ストックでは、苗立枯による枯死及びシュッコンカスミソウでは、地際茎の腐敗により枯死株が発生した。トルコギキョウ、ストック及びシュッコンカスミソウではそれぞれ株腐病、苗立枯病及び茎腐病としてすでに報告されている。</p> <p>3 リゾクトニア菌の同一の菌糸融合群によって起こる花きの主な病害 上記の他、サンダーソニア立枯病、ニチニチソウ苗立枯病、ハナショウブ紋枯病などが知られており、これらの栽培は被害を受ける可能性が高い。</p>		
期待される効果	カーネーション茎腐病発生地における後作物選定の参考資料とする。		
利用上の注意事項			
担当	フラワーセンター21あおもり 生産技術部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成9、10年度 フラワーセンター21あおもり試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 リゾクトニア菌のシュッコンカスミソウに対する病原性 (平成9年 フラワーセあおもり)

分離株	健全	軽症	中症	重症
97-104	2	0	0	1
97-105	0	1	0	2
97-108	3	0	0	0
97-109	0	0	0	3
97-110	0	0	0	3
97-111	0	2	1	0
97-4*	0	0	1	2
97-42*	2	1	0	0
97-60*	1	2	0	0
無接種	3	0	0	0

注) ポット試験

\*：カーネーション分離株、その他はシュッコンソウ分離株

重症は枯死を含む

表2 各種植物に対するカーネーション茎腐病菌の病原性 (平成9年 フラワーセあおもり)

接種植物	分離株の種類：97-4				分離株の種類：97-38			
	健全	軽症	重症	死	健全	軽症	重症	死
トルコギキョウ	0	1	5	6	0	6	5	1
キク	4	5	1	2	12	0	0	0
デルフィニウム	9	1	2	0	10	0	2	0
ストック	0	0	0	12	0	0	0	12
ユリ	0	6	0	0	6	0	0	0
ナガイモ	0	0	2	13	0	7	0	8
カーネーション	0	0	0	12	0	2	0	10

注) ポット試験、接種による激発条件